

ニッケル化合物を用いたオレフィンと極性モノマーの共重合

1170265 森元 奎太

Copolymerization of olefin and polar monomer
with Nickel compound

Keita Morimoto

ポリオレフィンには機械的強度や耐薬品性に優れているポリマーであるが、さらに極性基を導入することでもともとポリオレフィンが持つ性質に加えて接着性や相溶性といった性質をプラスすることが可能となり、ポリオレフィンの用途がさらに広がると期待される。ポリオレフィンには配位重合触媒を用いて重合されるが、極性基を有するモノマーは触媒を失活させるため、オレフィンと極性モノマーとの共重合はできなかった。しかし近年、パラジウムなどの後周期遷移金属触媒を用いることでオレフィンと極性モノマーの共重合ができることが報告されている。本研究ではニッケル錯体を用いてオレフィンと極性モノマーを共重合させることを目的として検討を行った。オレフィンに2-ノルボルネン(NB)とスチレン(St)を用いて単独重合または、極性モノマーにアクリル酸エチル(EA)を用いて、それぞれの共重合の検討を行った。

